



# からしだね

2018年2月号

(535号)

キリストの受難 カトリック池田教会

共同宣教司牧：島 基幸 神父・中村克徳 神父

協力司祭：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL : 072-751-2400 FAX : 072-753-4624

URL(ホームページ) : <http://www.ne.jp/asahi/catholic/ikeda/church/>



## 本号の記事の主題など

島 基幸神父による巻頭言

デニス神父様の言葉「物語は心を開く窓です」

新しい司牧体制に移ります

デニス神父様が1月16日に永遠の安息につく

デニス神父様のご略歴

デニス神父様の懐かしい写真

中村克徳神父の歓迎会と誕生会

2月の教会カレンダーへの追加と変更

追悼ミサに捧げる署名ができます

表紙の写真について

## 巻頭言 「Stories are windows to the heart. (物語は心を開く窓です)」

Denis McGowan, C.P.

畠 基幸 C.P.

ちょうど御受難会の共同体の日でクレメント神父様の命日を祝う1月16日(米国で15日)の朝、デニス神父様がお亡くなりになったことが米国管区の管区長ジョセフ・ムーン神父様から伝えられました。昨年11月19日に90歳の誕生日を迎えられ、クリスマスと新年の挨拶には新しい修道院ができる日を待ち焦がれていることが伝わっていました。心臓も腎臓も弱っておられたので、日本への帰国の希望で自らを励まし重い体を引きずりながら毎日を乗り越えてこられてきたのです。それが急変して、クレメント神父様が亡くなった日にデニス神父様が天に召されたのは同じ宣教師の仲間が迎えに来たのでしょう。セバスチャン神父様と院長ジョン・ブラザーとクルト・ブラザーが夜中の2時半に急を聞いて駆けつけ、セバスチャン神父様が病者の塗油や全免償の臨終の秘跡を授けると、目を閉じそのまま5分後に安らかに眠るように亡くなられたとのことです。

わたしにとっては、松本神父様、デニス神父様と私の三人の共同宣教司牧の思い出が走馬灯のように巡ってきます。デニス神父様は、教会への深い愛と子供たちへの愛情が豊かでした。この愛の心に育まれた60年間の幼稚園と教会です。とりわけ離れがたく大きな悲しみに襲われました。アメリカのシカゴ管区(聖十字架管区)では、デニス神父様のために90歳の誕生日祝いが催されたことがクリスマスの12月号管区通信に報告されていたところでした。二歳下の妹メリー・ワールドさんと妹さんの家族がケンタッキー州のレイビル市にある聖心修道院で90歳のお祝いをしました。デニス神父様を日本へ送り出してくれた妹さんやその家族と本当にゆっくりと誕生会を祝い、安堵した様子が写真から伺えます。

デニス神父様の召命は、小学7年生の頃でした。自叙伝のような文章が池田教会に残っていて、その記録によれば、お母さんも糖尿病で弱く、お父さんも始めは肺炎のような症状でしたが肝臓ガンで亡くなりました。子供は4人、長男ヨゼフ・トマスは赤ちゃんの時に亡くなり、ジミー(デニス神父様のこと)と2歳年下のメリー・ワールドとそれに5歳年下のトマス・ヨゼフがいて生活はとても苦しかつ

たのです。ジミー少年は、ちよつと暗い気持ちで友達とも遊べなくなっていました。そんなとき、クリスマスが来て、村人たちがジミー君の家族のことを気遣い、皆から食事や必要品などそれにアヒルの子供をプレゼントされたのでした。アヒルは食べないでエマールと男の子の名前をつけてかわいがっていたら、卵を産んだので雌だったのです。このときの村の人たちの心にとても感動したジミー少年でした。御受難会の小教区で育ち、1941年神学院予科生として御受難会に志願しました。お母さんの体調が悪く、家を支えて妹や弟のために働くべきか、司祭の道を行くべきか、いつも心の葛藤になったと神父さんは述懐しています。そんなとき、妹さんのメリー・ワールドさんが家計を助けるために働き始め、司祭になることをバックアップしました。

神父さんは、このような苦難の時、精神的に辛いときも教会の支え、家族の支えを通して支えられたことを信仰のチャレンジとイエスの愛の物語としての受難を黙想しておられたように思います。それは2010年のクリスマスイブに突然入院しなければならなかったときのことを「からしだね」447号に書いておられます。「予想できない出来事について、神さまの御旨だからということだけでは満足できないと・・・」。これが人生なんだとあきらめないようにと神父様は語っておられるようです。マリアとヨセフに起きた予想もできなかったことを受け入れ、それらを黙想しながら、イエス様に直接懇願する祈り、手作りの祈りを考案されました。名づけて、「希望を失わないで、だめだと思ふときのロザリオの祈り」を勧めておられます。神父様の祈りは、「希望を失わないように」、イエス様に呼びかけ、叫ぶような祈りです。一回目の大腿骨骨折、そして二回目の大腿骨骨折、二回目は長いリハビリ生活になりましたが、病院からでて、池田でも、日生中央でもミサをしたとき、希望を失わないように励まされた事に感謝されました。希望・愛・信仰、その中で希望は、一人の力では実現できないことも、愛の炎を燃え立たせ、信仰を引っ張ります。その希望は、イエス様のように御父に委ねて、御父のみ心を生きる決心から始まります。神父様は、あせらず淡々と毎日自分の部屋に戻ることを希望してリハビリに励まれ

ました。

神父様は物語が大変好きで、子供たちに読み聞かせることが好きです。その物語は、ご自身も励まされた話です。キャンプでいつも同じ話をします。また説教でも、結婚式でも、葬儀でもその場に相応しい同じ話を何度もされます。小さい頃、お父さんが車で帰ってくるのを町の門のところで待つて、乗せてもらって、家に着くまでお父さんの話を聞いた懐かしい思い出が浮かびます。そのお父さんとするお話は、お父さんに心を開く窓のように愛を感じて楽しかったのです。だから子供のときに神父様を感じた愛のぬくもりを子供たちに伝えたかったのだと思います。葬儀のときの説教には、古いアイルランドの霊性書「魂の友 (Anam Cara)」を引用して死は故郷の家に帰る安らぎがあるという慰めの言葉として何度も語っておられました。繰り返し何度も同じ話を読み聞かせるお父さん。神父様が少年のときに別れたお父さんのひざに抱かれて聞いたように

子供たちにしてあげたかったのです。

デニス神父様が好んだ日本の絵本は「モチモチの木」(齋藤隆介・作、滝平二郎・絵)でした。その絵本のエッセンスは絵本の最後に書かれた主人公である男の子のお爺さんの次の言葉です。「おまえは ひとりで よみちを いしやさまよびにいけるほど ゆうきのある こどもだったんだからな。じぶんで じぶんを よわむしだなんて おもうな。にんげん、やさしささえあれば、やらなきやならねえことは、きつと やるもんだ。それを見て たにんがびつくらするわけよ ハハハ」。神父様が物語を何度も読み聞かせる信念がここにも表れているように思います。

そう、いま 神父様は、御父の懐へと旅立たれました。私たちには神父様からプレゼントされた「心の窓を開く物語」が生きています。そこから、私たちもその物語を始めましょう。

## 4月1日付けで2つの新しい司牧体制に移ります

### ①大阪教区の司牧体制、②池田教会の司牧チーム

これらの2つの交替については、畠神父が既に1月14日開催の1月定例評議会で報告し、司牧チームの4月1日付の異動については7日と14日の主日のミサでも公にされました。

①従来の司牧体制では近接する複数の教会を宣教司牧するのは共同司牧チームでしたが、4月1日からは各教会の司牧を主任司祭の下で司祭、修道者らが協働して行なうこととなります。このために、池田教会と日生中央教会にはそれぞれ主任司祭が就任することになりますが、日生中央と池田の両教会は御受難修道会の兄弟教会であることは変わりません。

②池田教会の現在の御受難修道会の司祭によって構成される司牧チームは新年度初めにほぼ一新されます。畠基幸司祭は11年間の池田教会

から離れ、籍を宝塚黙想の家に移し、暫くの間は海外で研修される予定と聞きます。中村克徳司祭は池田教会司祭館に住まい、日生中央教会の主任司祭に転じられます。司牧チームの協力司祭であるノイ司祭は池田教会の主任司祭となり、池田教会司祭館に移られます。旅する池田教会は60年余の歩みの中で司祭と信徒が築いてきた交わりを基礎に新たな出発の時を刻むこととなります。

畠・中村両司祭は在任期間に違いがありますが、いつも迷えるわたしたちのことを気遣い、時に厳しく、時にやさしく、時にご自分と信徒とを区別せずに「わたしたちは」と、声をお掛けくださいましたことを忘れません。

## 2月のガラスケースのことは

あなたたちは喜びのうちに救いの泉から水を汲む

イザヤ 12:3



## デニス・マックゴワン神父様が1月16日に永遠の安息につく

池田教会に衝撃が走りました。もう一度池田へ戻りたいというデニス神父様の望み、お帰りなさいと迎えたい私たちの願いはとうとう叶えられませんでした。しかしデニス神父様は池田教会の私たちの心の中におられます。デニス神父様の教え、お姿、笑顔が私たちの心に深く刻みこまれていて、デニス神父様の存在こそが、現在も池田教会の信徒たちを結びつけるかなめとなっています。

池田教会のため、日生中央教会のため、聖マリア幼稚園のために一生を捧げられたデニス神父様、そして幼い子供たちをイエス様へ導くことを何よりも大切にしてこられたデニス神父様を、主よ、あなたの国に迎え入れてください。

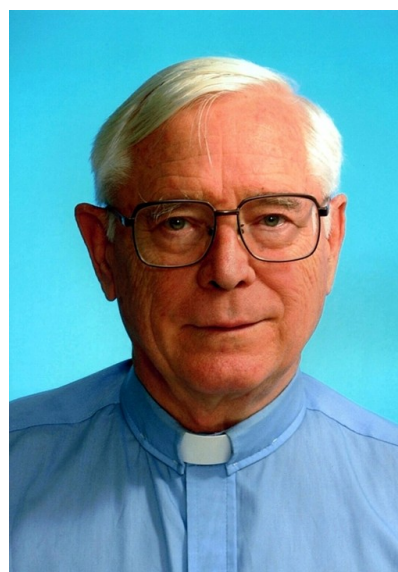
デニス神父様の追悼ミサは池田教会で2月10日(土)17:30からです。

### デニス・マックゴワン神父のご略歴

1927.11.19	米国ミズリー州セントルイス市にて生れる
1947.7	御受難修道会に入会
1955.3	米国ケンタッキー州レイビル市の聖アグネス教会にて司祭叙階
1957.9~1959.6	来日して東京にて日本語習得
1959.7~1962.7	池田教会助任司祭
1963 ~1966.5	宝塚黙想の家にて黙想指導
1966.3~1972.9	聖マリア幼稚園の初代園長
1966.6~1972.9	池田教会第4代主任司祭
1972.1~1974.3	福岡黙想の家にて黙想指導
1974.4~1988.9	池田教会第6代主任司祭
1974.4~2013.3	聖マリア幼稚園の園長を兼務
1980	池田教会にて司祭叙階銀祝
1988.9~1995.3	日生中央教会第3代主任司祭
1991.11~2016	W.W.ME関西の代表司祭
1995.4~2003.3	池田教会第8代主任司祭
2003.4~2007.1	池田・日生中央共同宣教司牧司祭
2005	池田教会にて司祭叙階金祝
2007.2~2016.9	池田・日生中央共同宣教司牧協力司祭
2016.9~	米国レイビル市にてリハビリ療養
2018.1.16	米国レイビル市にて90歳で帰天

### デニス・マックゴワン神父様の懐かしい写真

52年に及んだ池田教会と日生中央教会、聖マリア幼稚園のデニス神父様のご活躍はダイナミックかつ細やかでした。「デニス神父様金祝記念誌」におけるそのお姿を捉えた多数の写真の中から比較的新しいものを選びました。その多くは2004年から2005年にかけて撮影されたものです。



司牧チームのトップとしてのお顔



年に一度のお楽しみ(2015)。

上は池田教会聖堂前で(2004年)。下は日生中央教会にて(2015年)。

「神父様が少年のときに別れたお父さんのひざに抱かれて聞いたように子供たちにしてあげたかった」(畠神父の巻頭言を参照)。



来日以来の同僚である  
ウオード・ビドル神父と共に。



池田教会の信徒から司祭となった第一号の故松本一宏神父の初ミサ(2005.3)において。



## 中村克徳神父の歓迎会が お誕生祝会にも 1月7日

中村克徳神父は「主の公現」と名付けられた1月7日の祝日のミサをノイ神父ときょうどうで司式されました。その祝日が東方教会では「キリストの誕生日」としていることに因んで、中村神父はお説教において、19世紀のオランダ人の牧師ヘンリー・ファン・ダイクの小さな物語「The Other Wise Man」にある四人目の博士の姿をご自分に重ねられました。

**物語の粗筋**：東方の三博士と共に誕生したキリストへお祝の三つの宝石を捧げるべくキリストを追い続けた四人目の博士・アルタバンの物語。お誕生の馬小屋に遅れたアルタバンはイエスを追ってエジプトへの33年間の旅中に遭遇した貧しい人たちに3つの宝石を与えてしまい、ゴルゴダの丘に力尽きて辿り着く。しかし、臨終のアルタバンは十字架に架けられたキリストの言葉、「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」(マタイ25・40)を聞く。



ミサの終了後に「中村神父の歓迎会」がカール記念館一階ホールで開かれました。参加した沢山の信徒を代表して行った四倉評議会議長の挨拶は、1年半前に経験した激震=松本一宏神父の帰天とデニス・マックゴワン神父の帰国=の最中に

池田教会の司牧チームに加わった中村神父が希望という宝石を与えてくれたことを思い起こさせました。5日前の1月2日は中村神父の誕生日であることも披露され、歓迎会は誕生祝の会ともなりました。会のお世話は地区委員会が行いました。

### 2月の教会カレンダーへの追加と変更

- 2月1、8、15、22日(木) 10時30分～  
聖書100週間。
- 2月3、17日(土) 14時～16時  
ラウダート・シを読む会。
- 2月9、23日(金) 14時～16時  
福音書を学ぶ会。
- 2月10日(土) 中高生のお泊り会は  
17日(土)へ変更。
- 2月25日(日) ミサ後  
大人の日曜学校。

### 表紙の写真について

表紙の写真は2003年、宝塚黙想の家での「もみじまつり」で笑顔を見せるデニス神父様。

### 追悼ミサへ捧げる署名ができます

1月16日に帰天されたデニス・マクゴワン神父の哀悼ミサに捧げるために記帳台が聖堂に設けられています。2月10日(土)の追悼ミサまで記帳できます。

21日(日)から24日(水)までに書き込まれたメッセージ・カードはルイビル市聖アグネス教会での葬儀ミサで畠神父によって棺に納められました。

記帳台の正面にはデニス神父様の油彩画が置かれています。この画は当時の一信徒によって描かれ、2005年の司祭叙階50周年祝賀ミサでデニス神父へ贈呈されました。



### 宝塚黙想の家から黙想会のお知らせ

#### ■日帰り黙想会

2月15日(木) 10:00 ~ 15:30

2月16日(金) 10:00 ~ 15:30

指導: 山内十束神父



#### ■韓国語による聖書の勉強

2月28日(水) 10:00 ~ 15:00

指導: アンドリュー神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。☎ 0797(84)3111

### 編集後記

編集委員会開催直前に飛び込んできた計報は、池田教会にとってひとつの時代が終わったことを知らせるものだった。戦後の混乱が終息し、日本人の生活がようやく落ち着きを取り戻した頃、わたしたちの教会は活動を開始した。以来半世紀以上にわたって多くのひとびとが洗礼を受け、御言葉にしたがって歩み、さまざまな活動に従事した。その先頭にはデニス神父の姿があった。羊たちのよき導き手だった。ひとりの牧者のもと、わずかな羊たちが集うことから始まった教会は、いまや老若男女をあわせて毎週百五十名をこえる信仰共同体へと育った。デニスさん、ありがとうございました。

直